

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 30 日現在

機関番号：24403

研究種目：基盤研究（B）（海外学術調査）

研究期間：2008～2011

課題番号：20401046

研究課題名（和文） 開発と国家支配—連邦制国家エチオピアにおける開発エージェントと国家権力の相克

研究課題名（英文） Development and State Rule: Conflicts among the Development Agents and State Power in Federal Ethiopia.

研究代表者

宮脇幸生（MIYAWAKI YUKIO）

大阪府立大学・人間社会学部・教授

研究者番号：60174223

研究分野：人文学 A

科研費の分科・細目：文化人類学・民俗学

キーワード：開発、国家、エチオピア、南部諸民族州、オロミア州

1. 研究計画の概要

本研究はエチオピアにおいて、中央政府が地域開発を国家支配のためにいかなる形で利用しようとしているのか、そしてそれが地域住民にどのような影響を与えているのかを、南部諸民族州およびオロミア州の開発プロジェクトを事例として、実証的に明らかにすることを目的とする。今日のエチオピアの地方で行なわれている開発プロジェクトには、政府とプロジェクト間に複雑な依存/収奪の関係がみられる。地域開発には莫大な資金が投入され、関与する者に経済的利潤をもたらし、クライアント集団を形成することを可能にするが、他方で自由主義経済のもと開発の主体は多様化し、政権側と開発側、さらに開発の対象となる地域の住民の関係は複雑化し、そこに依存/収奪の関係が生ずるのである。本研究はこのような、エチオピアにおける国家権力・開発エージェント・地域住民間の複雑な交渉過程を明らかにし、そこからグローバル経済下の第三世界における開発と国家権力間関係のモデルを構築することをめざす。

2. 研究の進捗状況

フィールドでの参与観察と聞き取り、開発関係の諸機関における聞き取り、および文書資料の収集によって、エチオピア各地における開発と政治権力関係が明らかになりつつある。その一端は以下のとおりである。

現政権とつながりの深いティグライ州においては、前政権期から存続しているローカル・NGO が、当時反政府軍事組織だった TPLF がその経済部門として機能していたこと、だが現在は TPLF 内部の権力闘争によって、政権との関係が変容したことが明らかにされ

た。

ザンビアとエチオピアにおいて、食糧援助システムを運営する行政機構についての比較も行われ、共通点として食糧援助の現地レベルでの実践は、援助システムの様々なレベルにおける介入により、旱魃等を理由としたドナー向けになされている説明とは一致される形ではなされていないことが明らかになった。

南部諸民族州の牧畜民社会においては、医療システムの運営のあり方と、近代医療が現地農牧民にどのように受容されているのかに関する研究がおこなわれ、現地での医療システムは、医学的な観点からは、十分な形で展開されていないことが明らかになった。

エチオピア北部ラリベラにおいては、コミュニティを基盤とした観光事業の取り組みについての研究がおこなわれ、商業ベースによる観光開発を利用しつつ、それを住民の生活向上に結びつけようとする動きがあることがわかった。

このようなフィールドワークのほかに、開発と国家支配にかかわる諸研究の検討も行われた。国家権力がいかにして開発言説を利用し、それが地域住民に対していかなる影響を及ぼすのかが、確認された。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

各地域において順調に実証的なデータが収集されている。また現政権との関連においては、ティグライ州における NGO の活動についての研究が、その他の地域の開発エージェントの活動を考える上で、格好の比較対象となることが明らかになったことが重要な発

見であった。

4. 今後の研究の推進方策

現地調査の結果をまとめると同時に、文献資料によっても、エチオピアにおける開発と国家権力の関係の動向について調査を進め、現地調査の結果と比較対象を行う。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 18 件)

①宮脇幸生、「開発と抵抗—エチオピア西南部におけるプランテーション開発と現地住民の生存戦略」、『人間科学 (大阪府立大学紀要)』、6、23-66、2010、査読なし

②Matsumura, Keiichiro, Dynamics of Possession and Distribution: A Case Study of Rural Ethiopia., Japanese Review of Cultural Anthropology, 11、1-19、2010、査読あり

③Maki, Momoka, The Gaz Raids and Reconstruction of the Ethiopian Empire: The Final Gaz in Tigray and Northern Wollo, 1941-42, Nilo-Ethiopian Studies, 14、39-50、2010、査読あり

④Fujimoto, Takeshi, "Taro [*Colocasia esculenta* (L.) Schott] Cultivation in Vertical Wet-Dry Environments: Diversity Maintained by Mountain Farmers' Techniques in South-western Ethiopia., Economic Botany, 63(2)、152-166、2009、査読あり

[学会発表] (計 19 件)

①眞城百華、エチオピア・ティグライ州における紛争と戦後復興の経験—支援・復興・開発とティグライ社会、国際シンポジウム—日常を構築する—アフリカにおける平和構築実践に学ぶ—、2011年3月6日、国立民族博物館

②松村圭一郎、飢餓と森林回復：エチオピア北部における環境のジレンマ、早稲田文化人類学会、2011年1月22日、早稲田大学

③増田 研・中原由美子、ソマリ社会における母親による子供の健康促進行動：ケニア北東部ガリッサ県の事例、第19回日本ナイル・エチオピア学会学術大会、2010年4月18日、明星大学

④松村圭一郎、ザンビアにおける食糧安全保障体制：南部州の食糧援助の事例から、日本アフリカ学会第46回学術大会、2009年5月24日、東京農業大学

⑤宮脇幸生、エチオピア南オモ・ゾーンにおける綿花プランテーションの周辺社会への影響—プランテーション周辺に集まる Tsamako世帯の調査から、日本アフリカ学会

第45回学術大会、2008年5月25日、龍谷大学

[図書] (計 11 件)

①Miyawaki, Yukio, Köln: Rüdiger Köppe Verlag, Echi Christina Gabbert and Sophia Thubauville (eds.) To Live with Others: Essays on Cultural Neighborhood in South Ethiopia, Mainzer Beiträge zur Afrikaforschung, 2010、186-212

②Masuda, Ken, Oxford: Berghahn Books, Schlee, G. and E. Watson (eds.) Changing Identifications and Alliances in Northeast Africa: VOLUME I: Ethiopia and Kenya, 2009、53-75

③Fujimoto, Takeshi, New York: Berghahn Books, Serena Heckler (ed.) Landscape, Power and Process: Re-evaluating Traditional Environmental Knowledge. (Studies in Environmental Anthropology and Ethnobiology Series 10)、2009、156-182

④松村圭一郎、春風社、織田竜也・深田淳太郎編『経済からの脱出』(春風社)(著者執筆部分「感情の経済—エチオピア農村社会の富の分配」)、2009、111-137